

令和4年度 第1回総合教育会議 議事録

会議名称	令和4年度 第1回総合教育会議
開催日時	令和4年8月2日（火） 10時00分～11時15分
会 場	芦屋町 本庁舎3階 課長会議室
委員の出欠	<p>【委員】</p> <p>町 長 波多野 茂丸 〔出席〕</p> <p>教 育 長 三 榊 賢二 〔出席〕</p> <p>教育委員 長戸 隆弘 〔出席〕</p> <p>教育委員 井上 弘行 〔出席〕</p> <p>教育委員 吉崎 強志 〔出席〕</p> <p>教育委員 森山 真奈美 〔出席〕</p> <p>【委員以外の出席者】（オブザーバー）</p> <p>副 町 長 中西 新吾</p> <p>学校教育課長 木本 拓也</p> <p>生涯学習課長 本石 美香</p> <p>【事務局】</p> <p>企画政策課長 池上 亮吉</p> <p>企画政策課 企画係長 矢野 健太</p> <p>企画政策課 企画係 宮脇 和秀</p>
議題	<p>1 芦屋町教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況についての点検及び評価報告書について</p> <p>2 その他</p>
合意・決定事項	<p>○「芦屋町教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況についての点検及び評価報告書」の内容について了承される。</p> <p>○次回の会議は2月開催。次年度の取り組みについて説明予定。</p> <p>緊急の事案があれば、その都度開催する。</p>
傍聴者	なし

令和4年度 第1回総合教育会議 議事録

1 町長あいさつ

昨年度においても新型コロナウイルス感染症は収まることなく、長期化したことにより、学校を取り巻く状況はこの2年間で一変した。運動会などの行事を中止する自治体があった中で、どうすれば実施できるかを議論いただき、最善の形で実施することができたことやICT教育に積極的に取り組んでいただき、学級閉鎖などを行った際にICT機器を活用したオンライン学習を実施できたことなど、皆様のご尽力に感謝申し上げます。

さて、本年度から、芦屋釜の振興を推進していくため、そして歴史的文化資産の保存・継承を一体的に行うとともに、芦屋町の活性化を総合的に推進していくために、芦屋釜の里と歴史の里を町長部局に移管した。これまで教育委員会が築いてきた礎を引き継ぎ、今後は「地域づくり」の観点から、積極的に観光及びシテプロモーションなどと連携強化を図っていきたいと考えている。

次に、本年度の教育行政について触れると、数年にわたり教育委員会でも議論いただいた、給食費の補助を実現することができた。これに加え、英語教育の充実として、英検の補助やホームステイの代替事業、小学生を対象とした英語体験事業などを新たに行うこととしている。また、生涯学習分野においては、東公民館と山鹿公民館の改修を行うなど、住民にとって生涯学習の拠点となる施設整備を行うこととしている。芦屋町は現在、教育に力を入れており、様々な事業を展開している。引き続き、町と教育委員会が車の両輪となり、第6次芦屋町総合振興計画の将来像である「人を育み 未来につなぐ」取り組みを進めていきたいと考えている。

2 議 題

(1) 芦屋町教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況についての点検及び評価報告書について

【資料1】芦屋町教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況についての点検及び評価報告書

【資料2】令和3年度芦屋町教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況についての点検及び評価」についての意見書

- 主に、学校教育に関する事項は三桝教育長、社会教育に関する事項は本石生涯学習課長より説明。

【意見など】

- 課題に職員への語先後礼に対する意識の向上を啓発する取組とあるが、職員の意識が低いということか。
⇒ 児童については、指導を行っているが、教員を含めた学校全体での取組方針が定まっていない部分がある。教育委員会の場合であれば、朝礼であいさつをする際に、語先後礼を徹底しようと考えている。学校においても、教員が参加する会議の場で、語先後礼の取り組みを意識するよう指導したい。
- まずは教員が語先後礼の意識を持つことが大切だと考える。学校現場に若い先生が増えている。担任に語先後礼の意識がなければ、児童・生徒に浸透しないため、教員を含めた学校全体で取り組むことが必要だと考える。

- ICTの活用について、ICT支援員が各学校に配置されていることで、積極的なICT教育の実践ができているという、現場からの声がある。ぜひ、今後もICT支援員の配置を続けてもらいたい。
- ICT教育について、これまでは、とにかくICTを学校現場で活用することを第一に活動してきた。次のステップとしては、今までの実績を踏まえ、より効果的にICT教育を展開するために、積極的にICTを活用する場面を決めるなど、使い分けを検討していく時期なのではないかと感じる。
 - ⇒ ICT教育については、積極的な活用から、効果的な活用について検討する時期だと考えている。
- 町の目標としてC評定児童 25%以下を目指しているが、B評定児童をA評定まで引き上げたり、A評定児童をさらに上のレベルに引き上げることも必要ではないか。また、その実現のため、家庭学習でのICTを活用した習熟度別学習が必要ではないか。
 - ⇒ 学力の保証ということで、C判定児童 25%以下を第一目標として行っていく。また、家庭学習でのICTの活用については、本年度検討を進める予定としている。ICTを活用した習熟度別学習については、今後の展開として検討をしていきたい。
- ICT支援員が各学校に配置されているというのが芦屋町の強みだと、全国の会議に参加して実感している。ICT支援員がいるからこそ、他自治体と比べてもICTの活用が進んでいると思う。今後は、どの場面で重点的にICTを活用するのか、そのためにはどのようなアプリを選定するかなど、検討してもらいたい。
 - ⇒ オンライン授業を実施する際に、改めてICT支援員の存在が重要だと感じた。教員が学習活動に専念できることにもつながっていると実感している。
- 英語教育について、英語専科教員と中学校の英語教員の意見交換の場の設定が課題となっているが、オンラインで実施することを検討してほしい。
 - また、ICT教育の推進は学校のトップである校長の理解があるかどうか重要であると感じる。校長向けの研修会を実施することは考えているか。
 - ⇒ 校長向けの研修会は町として実施していない。今後検討していきたい。
- ICT教育は現在過渡期を迎えていると感じている。5年先、10年先、30年先の人材を育成するという気持ちで、取り組んでほしい。
- コロナ禍でボランティアなど、様々な活動を行うことが難しい状況にあると思う。芦屋町はぼらんていあキッズ事業やハンズ・オン・キッズ事業を通して次世代のリーダーづくりの場として取り組んできたと思うが、今後、中学生以上を対象とした事業展開などはどのように考えているか。
 - ⇒ 現在の活動は、小学生の時期のメニューが多種多様になっているが、中高生や大学生が参加できるものもある。しかし、中学生以上になると、参加者が大きく減るという課題がある。ボランティア活動については、本年度からコーディネーターが新しく着任したことから、今後の事業展開について検討をしている段階である。その中で、中学生以上の次世代リーダー育成について、新しいアプローチができるように考えていく。
- コロナ禍で土曜学び合いルームの中止が続いており、夏休みに入ると子どもの学習の場がなくなってしまう。子どもの居場所としても、夏休みの数日だけでも実施できればと感じている。
 - ⇒ 感染症対策の観点から現状ではリスクが高いと考えている。コロナが落ち着いたら、

再開したいと考えている。

- P T Aの方々に、この会議に出席してもらうのもいいかもしれない。

(2) その他

[活用実践事例集について]

【R4. 8. 2 総合教育会議追加資料（教育委員会）】指導者用/学習者用デジタル教科書 活用実践事例集

- 啓林館が作成した、I C Tを活用した事例を紹介する活用実践事例集に、芦屋東小学校の取り組みが掲載されたことを、三柵教育長が説明。

[事務局]

- 次回の会議は 2 月開催。次年度の取り組みについて説明予定。緊急の事案があれば、その都度開催する。